埼玉の
くらしと
社会保障

2017年11月1日発行 第２５９号（毎月1回発行）
発行 埼玉県社会保障推進協議会
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町７-１２-８
自治労連会館１階
電話048-865-0473　fax048-865-0483
「埼玉社保協」と検索下さい。ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞあります

平和・共生・豊かな社会へ

第38回埼玉障害者まつりに4300人が参加

今年は、豪雨災害が多発したこともあり、いつもより心配していましたが、10月８日（日）は天候に恵まれ、第38回埼玉障害者まつりが見沼太鼓の勇ましいバチさばきにのって開催されました。

冷え込んでいた前日までと打って変わり夏に戻ったような陽ざしの中、会場の埼玉県障害者交流センターには県内各地から4300人の参加がありました。

平和・共生・豊かな社会を、「『みんなでつくろう！笑顔あふれる街』―ともに生きる。豊かな社会をめざして」の願いをテーマに込めて、メイン企画としてシンポジウムを開催しました。社会保障・社会福祉の行き先不安から、子どもに焦点を当て、子どもたちの生活実態を基に、卒業後の進路先の確保や、障害福祉事業への営利企業の参入問題を、各分野からご報告いただき、意見交流しました。特に参加者からは放課後ディサービスの実態に驚いた人が多くいました。

障害者まつりの特徴は、どんな人が参加しても、必ず楽しんでいただけるよう、盛りだくさんの企画を用意していることです。女子プロレスをはじめ、ヘルシーで健康的なベリーダンス、若さあふれるフラダンス、華麗で完成度抜群の朝鮮舞踊とコーラスを柱に、ステージではフォークバンドやロックバンド、太鼓サークル、ドラムサークル、うたごえが響きました。また会場の各スポットでバナナのたたき売りなどの大道芸や紙芝居、パネルシアター、南京玉すだれ、マジックバルーンに、今回は人気の猿まわしも加わりました。お母さんが子どもに手をぴっぱられお猿さんをズッと追いかけている姿も見られました。

女子プロレスでは、ひいきのレスラーに掛け合いの声援が飛んだり、おきまりの場外乱闘に大きな声を上げる観客もいました。

屋内・外で繰り広げられた模擬店やバザーも人盛りになりました。こどもたちが主人公のワークショップ付きの影絵、木工教室、昔懐かしい射的や輪投げ、手品、そして似顔絵コーナーとお目当ての企画を楽しみました。こどもたちの元気な声が絶えず響いていました。

また、年金相談や心の病いの相談があり、仕上げはリラックスを求めてクイックマッサージや、障害者まつりの参加記念の似顔絵コーナーと回りきれない程の企画。

しかし、参加者を2階の会場に上げることは大変なことです。前回の成功に味を占め、今回も「宇宙食試食コーナー」を用意しました。物珍しさも手伝い午前中であっという間に品切れとなりました。障害者アートをめざして美術展は作品も増え、とても見応えのあるコーナーになってきました。

体育館では東京パラリンピックの正式種目になったボッチャやフライングディスク、障害者・健常者が一緒になって楽しめるふれあいスポーツ・レクは、もの珍しさもあり、めいっぱい楽しんでいました。

（障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会
副会長　國松　公造）

今こそ、「一人はみんなのために　みんなは一人のために」の精神で
埼生連第49回大会 100人が参加

10月22日、埼生連第49回大会がさいたま市内において総勢100人の参加で開催されました。総選挙当日と台風の接近による大雨が降る中の開催という、文字通り激動の情勢にふさわしい大会となりました。埼玉県社会保障推進協議会川嶋事務局長をはじめ、全生連と全日本年金者組合埼玉県本部から来賓を迎え、激励のご挨拶をいただきました。

笹井会長は冒頭のあいさつで、元教員の人が「いつの間にか戦前に戻っている。社会保障か軍拡かを迫られる選挙になっていることが恐ろしい」と訴えていた。生健会も右肩上がりに会員・読者をふやして、命と平和を守れる強い組織になるように頑張ろうと述べました。

大会を成功させようと8月25日から直前の10月20日まで組んだ特別月間で18単組が何らかの成果を出し、48世帯・64部を増やして大会に臨みました。選挙活動の対話のなかで1世帯・1部を増やしたところもありました。前大会現勢を10単組が超え、準備会から単位組織に格上げした坂戸市生活と健康を守る会や草加生活と健康を守る会、かすかべ生活と健康を守る会の3単組が、埼生連の組織拡大賞を受賞しました。

質疑討論では12人が発言しました。草加の発言者は「前事務局長の病気退任をきっかけにこの6月に事務局長に就任した。少数の役員が会務すべてを担っていた状況を抜本的に変え、班を3つ作って班会ができるように改善、配達・集金者も倍に増やした。ウォーキングや歌声をやる中で、これまでそっぽを向いていた人も入会するようになった。来年の総会までに会員70世帯にする」と発言。かすかべからは「ほとんど生活相談で増やした。若い40代の会員が役員になったが、本人も体調がすぐれないにもかかわらず他人の苦難を見過ごせずに、保護課に同行して定時制高校生の就学支援費4年分を約束させ皆で喜び合った。若い役員が加わったことで役員会全体が元気になっている。『食わせろ、働かせろ、病気を直せ』に加えて『住まいをよこせ』の運動、『我慢しないで、一緒に生活保護を使おうよ』の運動でがんばりたい」。

埼玉では生活保護基準引下げ違憲訴訟の裁判も佳境に入ってきています。25条集会も埼玉県内幅広い団体が参加して第2回の開催が予定されています。憲法9条と25条が危機に立つ今こそ、生活と健康を守る会が「一人はみんなのために　みんなは一人のために」の精神で、国民的な連帯と共同を広げ、安倍内閣を打倒して平和・民主・公平な社会の実現に向けて奮闘しようと決意を固め、第49回大会が閉幕しました。

（埼生連　事務局長　高藤　登喜恵）

具体的な内容が語られず
厚生労働省への介護保険要請行動

10月4日、中央社保協が設定した厚生労働省への介護保険の要請行動に参加しました。

要請事項は、①生活援助サービスを訪問介護から切り離さないこと、②財政的インセンディブで介護サービス対象者削減を誘導せず、「自立」の名のもとでサービス削減しないこと、③利用者負担引き上げを実施しないこと、④特養ホームなどの整備、⑤介護報酬の大幅引き上げ、⑥介護従事者の処遇と確保対策、⑦軽度者サービス縮小や福祉用具の自己負担化をしないことなどでした。

参加者は、都内での「介護保険制度改定の影響アンケート」結果から事業所の54％が経営悪化し、2018年介護報酬改定で引き上げを70％が求め、人材確保の困難を71％が訴えていると紹介したり、大田区の総合事業の利用ガイドブックがサービスを利用しないことが良い事例、利用することが悪い事例としている是正を求めるなどしました。私は、川口市での介護事業所訪問の経験から1年余りで400事業所の約1割が連絡不能となり、「（経営悪化で）来月閉じる」という事業所があったことを伝え、介護報酬引き上げを求めました。

厚労省から老健局と社会局の担当が対応しましたが、周知の経過や主旨を説明して「検討している」と答弁するばかりで、参加者からの「担当事務局として何をどう考えているか？」という質問に対しても具体的な内容が語られませんでした。（怒）

年末に向けて厚労省での議論が進む予定ですが、介護保険改善の世論を高めることが更に必要と感じた交渉でした。

（医療生協さいたま・埼玉民医連　保土田　毅）

県は国保への財政責任を果たせ
県議会への国保請願は不採択

埼玉県議会9月定例会が10月13日まで開かれ、埼玉社保協が提出した国民健康保険の都道府県化についての請願は、常任委員会である福祉保健医療委員会で賛成少数により不採択となりました。ご協力をいただきました団体、地域社保協等の皆様ありがとうございました。

今回の請願は、「①国に対して、公費負担の増額を求めること　②国保の都道府県化により、保険税を値上げしないこと　③一般会計からの法定外繰入れについて、各市町村の判断を尊重すること　④県も、国保へ法定外繰入れを行ない、財政運営の責任を果たすこと　⑤県として、国保税及び医療費の低所得者減免の制度を検討すること　⑥県として、子どもの保険税均等割負担軽減の制度を検討すること」の6項目を要望していました。

県議会本会議に報告された福祉保健医療委員会の報告によると、「国民健康保険制度に必要な財政措置や減免制度などは、国が行うべきである」「県の法定外の一般会計繰入を予算化することについては、財政基盤の強化を目的とする今回の制度改正の主旨に沿うものではない」さらに「市町村の保険税や法定外繰入については、市町村が判断すべきものである」との理由で反対意見が紹介されました。

これに対して「採択すべきとの立場から」は、「国民健康保険の都道府県化が保険税の値上げにつながってはいけないということは全国民の要望であり、県も、財政上の責任を果たすために繰入などを考慮してしかるべきである」との発言(共産党秋山議員)が紹介されました。

国保の構造的問題の解決のために国は新たな財政支援を行ない「財政基盤の強化」を行います。県内の市町村は今後も法定外繰入れを継続することと予想されます。「国と市町村」と同様に、県も財政支援を行なうよう、引き続き要請を強めていきたいと考えます。

◆署名到達　574団体、2,777人

◆紹介議員(敬称略)

□無所属改革の会／中川浩、木下博信、松坂善浩

□日本共産党埼玉県議団／柳下礼子、金子正江、村岡正嗣、前原かづえ、秋山文和

待機児童の解消、保育士の処遇改善は急務
さいたま市　保育園入園申込始まる

11月19日より、保育園の入所申し込みが始まりました。今年も待機児童解消に向けて平成30年4月開園予定の民間保育園が15施設ありますが、年々増え続ける入所申し込み数にどこまで対応できるか難しいところです。

保護者は、希望する保育園の見学を盛んに行っていますが、入所枠の少なさにため息を漏らしながら、できる限り条件の整った保育園に入所しようと真剣に説明を聞いています。中には、給食は自園でつくっているか、園庭はあるか、散歩に連れ出しているか、紙おむつは使用可能か、駐車場はあるかなど細かく問い合わせてくる方もいます。成長発達の著しい大切な時期を過ごす保育園ですので、よく考えて選んでほしいと思います。

受け入れる保育園側としては、見学に来られる皆さんを入れてあげたいと思いつつ、現状の厳しさにため息を漏らしながら、現場の人手不足に悩んでいます。欠員のある保育園も多く、募集をしても保育士が集まらずやむなく超過勤務で人手不足を補っているところがほとんどで、職員は肉体的にも精神的にも疲弊しています。

特に近年では、発達に特別な支援が必要な子どもが増えてきているので、生まれつき心身に障がいのあるお子さんも含め、育成支援児の受け入れについては、受け入れ枠の拡大とそれにともなった職員の配置を改善してほしいと思います。

待機児童の解消と、保育士が働き甲斐をもって働き続けられるように仕事内容にふさわしい処遇改善も求めていきたいと思います。

（埼玉県保育問題協議会　事務局長　金子　貴美子）

第２６回埼玉社保協総会

12月16日(土) 10:00～16:30

会場　ときわ会館5F・大ホール

午前：記念講演　浅井　春夫さん

（立教大学名誉教授／埼玉社保協副会長）

午後：総会

お弁当は申し込み下さい。(1000円)

お申し込み書は後日、各組織へお送りします。

総選挙の結果に思う
流動的な状況が続く政局

選挙の結果、議席数としては安倍自民党が圧勝し、改憲の動きが加速することを懸念する仲間も多いでしょう。失速した希望の党や維新の会、そして公明党は、安倍改憲の動きにどう対応するのでしょうか。立憲民主党が野党第一党になり、希望の党は漂流、民進党の分裂で、政局の流動的な状況はしばらく続くでしょう。

市民と野党の共闘をめざして、埼玉では15の小選挙区すべてに市民による地域連絡会がつくられました。野党の政党間協力の成立を求める運動が前進しようとしている、まさにその時に、降ってわいた解散総選挙、そして希望の党の出現と民進党の分裂は、突風となって野党の動きをかき乱しました。それでも、各地域で重ねられたぎりぎりの努力は、流動的な政治状況のなかで、次なる一歩を準備する力を積みました。

民進党は、これまで、安倍政治に対抗する立場で左派が党全体を引っ張ってきましたが、党内には「第二自民党」的な人がかなりいましたから、今回の動きで、実態が国民の目から見えやすくなったと思います。

社会保障では、2012年の「三党合意」に縛られていた民進党が解党状態になったのですから、安倍政治に対抗する野党が、これから消費税・社会保障問題でどう動くのかが注目されます。流動的であればこそ、どの政治家も世論を気にします。カギを握るのは、生活問題で草の根から声をあげ、解体に走る社会保障改革にストップをかける政治勢力を「下から」つくっていく地域運動の力量です。

（埼玉社保協　副会長　原冨　悟）

県政要求共同行動

日時　１１月１０日（金）　（受付は9:30～）
　　10:00　全体集会
　　13:00　県政一般、社会保障分野に分かれて県政要求

会場 埼佛会館
（さいたま市浦和区高砂4-13-18
電話048-861-2138）
※会館に駐車場はございません。
県庁駐車場か有料駐車場にお願いします。

□開会/あいさつ　13：00
□回答と懇談　13：15
①医療について
（回答10分/懇談45分/13：15～14：10）
②子育て・保育について
（回答5分/懇談30分/14：10～14：45）
（途中10分休憩）
③障害者福祉について
（回答5分/懇談30分/14：55～15：30）
④介護について
（回答5分/懇談35分/15：30～16：10）
⑤生活保護について
（回答5分/懇談30分/16：10～16：45）
□閉会　16：45予定
主催：　県民要求実現埼玉大運動実行委員会
　　埼玉社保協

埼玉社保協
第1回常任委員会 兼 第116回運営委員会

と　き 11月29日(水)14時
場　所 埼玉会館3B会議室
協議事項　総会に向けて
　　その他

11月11日は、「いい介護の日」
介護・認知症 無料
なんでも電話相談
TEL0120-110-458
日時　11月11日(土)10時～18時